

観光立国タイから学ぶこと

北陸銀行 国際部
バンコク駐在員事務所
所長 湧川 裕明

1. はじめに

日本では、10月11日よりコロナウイルスに関する入国規制を撤廃し、外国人観光客の個人旅行も解禁されました。折からの円安も追い風として、インバウンド需要の増加が期待されていますが、ここタイでもアフターコロナに向けた動きが日本以上に進んでいます。タイでは10月1日より疾病対策におけるコロナの扱いを格下げし、無症状か軽症なら自宅などでの隔離も不要としています。入国規制は完全撤廃され、ワクチン接種証明書や陰性証明書の提出も不要となっています。

コロナ前から日本では国を挙げてインバウンドの取り込みを強化していましたが、タイは日本よりはるか昔から観光産業振興に力を入れており、国の重要産業の役割を担っています。観光立国タイの取り組みや現状を知ることで、日本のヒントにつながるのではないのでしょうか。

2. タイはどれ位の観光立国なのか

外国人訪問者数（2019年）

（単位：百万人）

| | | |
|----|--------|------|
| 1 | フランス | 89.3 |
| 2 | スペイン | 83.5 |
| 3 | 米国 | 79.2 |
| 4 | イタリア | 64.5 |
| 5 | 中国 | 62.9 |
| 6 | トルコ | 51.1 |
| 7 | メキシコ | 41.3 |
| 8 | タイ | 39.7 |
| 9 | ドイツ | 39.5 |
| 10 | 英国 | 39.4 |
| 11 | オーストリア | 31.8 |
| 12 | 日本 | 31.8 |

【国連世界観光機関データよりバンコク事務所作成】

インバウンドによる消費額（2019年）

（単位：億米ドル）

| | | |
|----|----------|-------|
| 1 | 米国 | 2,394 |
| 2 | フランス | 707 |
| 3 | タイ | 643 |
| 4 | ドイツ | 583 |
| 5 | イタリア | 519 |
| 6 | 日本 | 492 |
| 7 | オーストラリア | 479 |
| 8 | トルコ | 414 |
| 9 | マカオ | 411 |
| 10 | アラブ首長国連邦 | 384 |
| 11 | 香港 | 326 |
| 12 | インド | 316 |

【World Bankデータよりバンコク事務所作成】

上記はコロナ直前の2019年の統計値になります。タイは2指標ともASEAN諸国の中で唯一上位にランクインしており、いずれの指標も日本を上回っています。外国人訪問者数が8位の一方でインバウンド消費額が3位ということは、いかに効率よくお金を落としてもらっているかが見てとれます。

また、観光収入の対GDP比ではタイは21.6%、日本は7.4%(出所:knoema、2018年データ)と、観光収入への依存度が日本よりはるかに高い状況です。観光立国であるということは、観光産業の盛衰が国の経済状態を左右するという危うさも含んでいると言えます。

3. タイの観光推進策

タイでは国策として観光業に注力してきた歴史があります。タイ国政府観光庁が設立されたのは1960年です(日本の観光庁設立は2008年)。タイ観光庁はタイ国内に45か所、海外に29か所の事務所を有しています(日本には東京・大阪・福岡の3か所に設置)。日本の観光庁の事務所は本庁1カ所のみ の状況です。

タイ観光庁の紹介サイト等を調べる中で、筆者なりに腑に落ちたキーワードが二つあります。それは「ロングステイ」と「メディカルツーリズム」です。

①長期滞在の観光客が観光収入に寄与

バンコク市内を歩くと、イギリスのパブのようなお店があちらこちらにあり、どこも欧米系の人たちで賑わっています。また欧米系富裕者層への訴求が高い高級ホテルの数も国の規模に比し、多いと言えます(ミシュランガイド5つ星ホテルの数は日本の23軒に対しタイは17軒/タイの人口は日本の約2分の1強)。夏のバカンスや寒い冬の間をタイで過ごす欧米系の旅行者は長期滞在する傾向があると言えます。

また、長期滞在者を優遇する政策も整えています。観光庁には「タイランドエリート」という特別な外国人向け長期滞在プログラムがあり、最長20年のビザ取得が可能になる他、出入国時の空港でのVIP待遇、普通はハードルの高い銀行口座開設、無料ゴルフ等の特典を用意しています。(但し特典を金で買うイメージであり、最高級ランクのコースは入会金200万バーツ(約800万円)年会費2万バーツ(約8万円)かかります。)今年9月からは、タイ投資委員会が「長期居住者ビザ」の取り扱いを開始し、資産規模など一定の要件を満たす富裕者は10年のビザやタイ人雇用義務の免除などの恩典を受けることができます。

②シニア層のロングステイに欠かせない医療機関の国際化

タイでは、病院はサービス業と捉えられている向きがあります。タイ国民には公的医療保険制度がありますが、対応しているのは国公立の病院のみで、民間医療機関は株式会社による利益追求を目的とした医療ビジネスになっています。メディカルツーリズムの国際的指標とされている国際的な医療施設認証機関JCI(Joint Commission International)の認証を受けている医療機関の数は、日本が28施設なのに対し、タイは67施設です(2019年7月現在)。東アジア・東南アジアでは中国に次いで2番目の多さです。

バンコク市内には外国人対応の有名私立病院がいくつもあります。筆者もその一つ「サミティヴェート病院」で予防接種を受けたことがあります。この病院は日本人駐在員が多く住む「スクンビットエリア」にあることもあり、日本人専用病棟があります(2019年オープン。東南アジア初とのこと)。基本的に24時間体制の診療で、受付から会計までスタッフの方がマンツーマンで案内をしてくれました。医師・看護師とも英語を話し、おもてなしの精神は日本の病院と同等もしくはそれ以上と感じました。



左:「サミティヴェート病院」日本人専用病棟の建物、右: 日本人専用病棟の案内板(筆者撮影)

4. おわりに

観光立国タイのキーワードは日本のインバウンド需要を増やすことにおいて、参考となると思います。

ロングステイは、ビザ取得等国の方針次第の話でもありますが、民間ベースの話とした場合、日本でもメディカルツーリズムへの取り組み強化が求められていると思います、まずは受け皿となる医療・サービスレベルが充実した病院の数を増やすことが重要ではないかと考えます。また、温泉資源を活用した日本ならではの医療ツアーも考えられるのではないのでしょうか。

<ご注意> 文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。記載内容については、ご利用者の判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

海外ビジネス情報

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内)
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp